

平成26年8月26日の山陽新聞に

「スマホ使うほど成績低く」

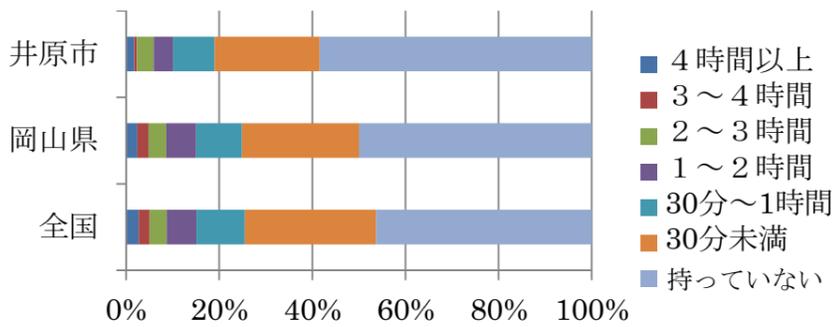
とショッキングな見出しで報道がありました。これは小学校6年生と、中学校3年生が行った全国学力・学習状況調査の結果から、見えてきた傾向です。

井原の子どもたちにもこの傾向は見られるのでしょうか？

小・中学生のスマートフォンなどの利用の現状は？

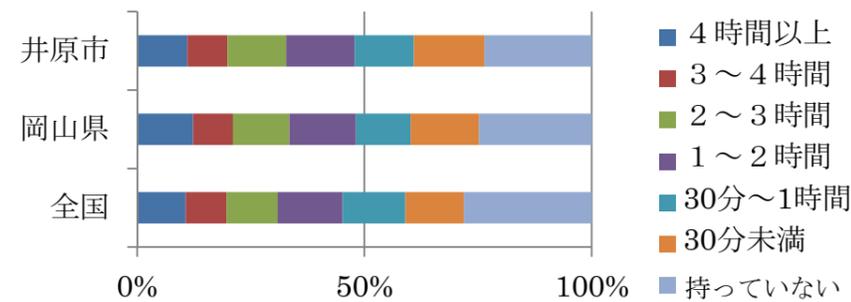
携帯電話やスマートフォンを使って平日に通話やメール、インターネットを利用する時間

【小学校】



【中学校】

利用時間は全国や県とあまり変わらない。



井原市内でも、小・中学生の子どもたちの中で、スマートフォンやネットでのトラブルから、人間関係のこじれ等が発生しています。

生徒指導講演会より

日時 平成二十七年二月四日
会場 アクティブライフ井原
講師 嶋田亜紀 先生
内容等
・様々なアプリを使って、できることとその危険性についての紹介
・子どもは人格形成や分別をつくらせている途中であるので、使い方にはルールが必要である。
・また、ネットやスマホは、便利な道具であるが、不慣れた体験をしておくことも、人格形成する上で必要なことである。等

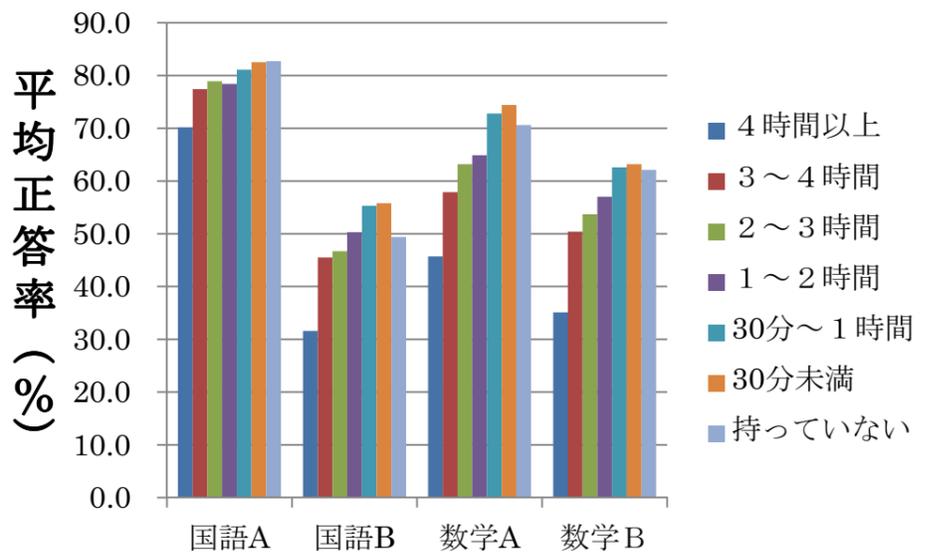
《参加者の感想》
・便利な物だけど、簡単に与えすぎていることが問題だと思えます。与えた大人の責任です。
・スマホ・ゲームの使用年齢が年々低くなっているのでびっくり。しっかり声かけや親子の会話が大切な時期なのに将来不安です。
・SNSが原因で友達と疎遠になったり、不登校になったりする子が身近にいたので、いま本当に子どもたちに必要な知識だと思えます。
・ネットに関するきちんとした知識を身につけたいと強く思いました。
・軽はずみな投稿が子どもの将来にもかかわる現実を知り恐ろしいと思いました。責任をもって情報は流さないダメですね。

★ 井原市のスマホ利用の未来像

親も守って手本となる『わが家のスマホルール』がある。使うとき、使わないときを決めてメリハリのある生活をしている。インターネットと現実の付き合い方を意識している。自己防衛で、トラブル回避をしている。必要なときに有効活用をしている。



携帯電話、スマートフォンの利用時間と学力調査の関係
【井原市 中学校】



スマートフォンやゲームなどの夜の使い方について考えましょう

県全体で3つの取組を進めています！

- 保護者が午後9時以降はスマホを預かりましょう。
- ゲームも午後9時までとしましょう。
- 学校でスマホなどについて考える場を設けましょう。

本県の児童生徒のゲームの時間が増加しており、特に中学生では4人に1人が平日の時間以上プレイゲームをしている状況です。また、近年、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースも増加しています。

そこで、岡山県教育委員会では、PTAや学校、市町村教育委員会、小中学校長会等と連携した取組を進めています。

夜更かしで、スマホで友達とやり取りしているから、どうやって連絡しようかしら...

悪いけど、ここで通話を断りたい。断れば、仲間はすれなくなるから一先、お断りしたい。

● 学校で(月～金曜日)、1日当たり15分以内の時間、テレビゲーム(コンシューマーゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話のゲーム)を遊ぶ時間を制限します。(※ 保護者の同意を得る必要があります。)

● 学校で(月～金曜日)、1日当たり15分以内の時間、テレビゲーム(コンシューマーゲーム、携帯型のゲーム)を遊ぶ時間を制限します。(※ 保護者の同意を得る必要があります。)

| 学年 | 制限時間 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|
| 小学生 | 15分 |
| 中学生 | 15分 |
| 高校生 | 15分 |

家庭や学校で、ぜひ
① 子どもと保護者がスマートフォンやゲームの時間や使用等について話し合い、ルールをつくりましょう。
② 学校や生活発表会などで、スマートフォンなどの使用について考えたり話し合う活動を行いましょう。

井原市の取り組み！

- 1 家庭で
- 2 学校で
- 3 市全体で

家庭において、子どもと保護者がスマートフォンの使い方や時間について話し合い、「保護者が午後9時以降はスマホを預かる」、「ゲームも午後9時までとする」など、家庭内のルールをつくる。

学校において、学級や生徒会などで、スマートフォンの使い方について考え、話し合い、子どもたちが自分で制限の必要性について理解し実践する。

市全体として、スマートフォン・ゲームに関する取り組みを進め、「親が注意しやすい」、「子どもが誘いを断りやすい」環境を作る。

井原市立高校 完成 出部公民館

老朽化に伴い、建築中であった市立高校の新校舎が 今月完成しました。新校舎のコンセプトは、学び直しの学校としてアットホームな雰囲気のある校舎で、木のぬくもりを感じることができる温かみのある校舎としました。

各教室は冷暖房完備で、照明器具は、環境に配慮しLEDとしています。また、体育館がないため、さまざまな催し物や、卓球、バドミントンといった簡単な運動のできる集会室を2階に整備しました。



▲新築された市立高校

この度、改築した出部公民館は、鉄骨造2階建てであり、外観は周囲の豊かな自然と調和した色彩となっています。

延床面積は、880㎡（約266坪）あり、市内の地区公民館では一番広い施設となっています。

新公民館は、旧公民館に比べ約2.6倍と広くゆったりとしており、エレベーターの設置を行うなど、ユニバーサルデザインに配慮し、屋根には太陽光発電装置を設置し、環境にやさしい造りになっています。

館内は多目的ホールや学習室、調理室など多くの学習活動を行う部屋を整備し、多目的ホールは100人を超える人が収容でき、地域の拠点施設、生涯学習を推進する社会教育施設として、幼児から高齢者まで利用しやすい施設となっています。



▲新築された出部公民館

11月19日は、井原市学校給食センターの受配校の中から木之子幼稚園の園児とその祖父母を対象に、また1月27日は、美星

井原市学校給食センターでは、平成26年度井原市笑って健康元氣アップ事業・笑顔の食卓。パワーアップ事業として、市内2幼稚園を対象に「ふれあい給食」を実施しました。

これは、学校給食の調理風景を見学し、また給食を家族と一緒に試食することにより、幼児期の食事の大切さを理解していただくことを目的としたものです。



▲木之子幼稚園での様子

調理場の受配校の中から荏原幼稚園の園児とその祖父母を対象にそれぞれ調理場を見学するとともに給食と一緒に試食し、食育の大切さを勉強していただきました。

ふれあい給食の開催

一緒に給食を食べてよ

木之子幼稚園

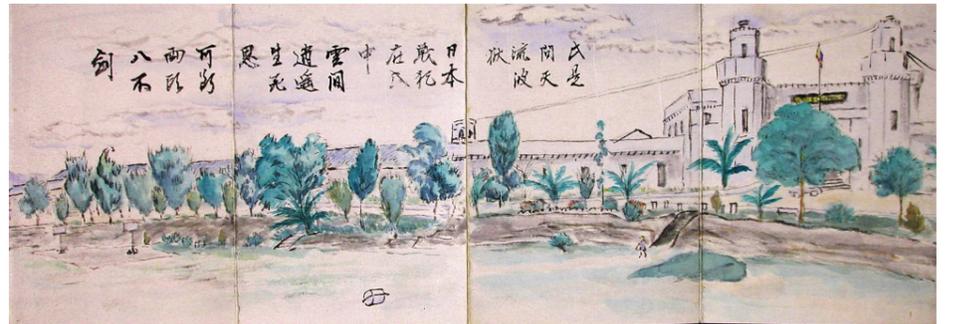
主な感想

参加された祖父母の方々の

●荏原幼稚園
 ・孫が、家では食べないものも給食では食べていたので驚きました。
 ・給食は薄味だったけど、出汁の味がおいしかったです。
 ・家で味付けも直したいです。
 ・地元産の野菜を豊富に使っているのがわかり感動しました。

●木之子幼稚園
 ・普段見ることのできない給食センターを見学でき、よりおいしく給食を食べることができました。
 ・センターで3千5百食も作っているところを見て、びっくりしました。
 ・たくさんの方で、いろいろな食品が食べられるようになってきたなあと感じました。

いばらまめ知識 第2回 「モンテンプル画帖」



このスケッチは、戦後間もない昭和25年1月、フィリピンのモンテンプルという町を描いた風景で、椰子（やし）やマンゴーの木の向こうに見えるお城のような建物は、当時、東洋一の規模と言われたニュービリティ刑務所です。

描いたのは、荏原地区にある宝蔵院（ほうぞういん）の住職・加賀尾秀忍（かがおしゅういん）です。秀忍は昭和24年からの4年間、この地で過ごしました。戦犯として刑務所に収容された人々の教誨師（きょうかいし）（囚人に正しい道を歩むようさとす人）として赴き、助命嘆願活動に奔走。108人の日本人の命を救い、共に日本へ帰還しました。

スケッチに添えられた歌には、秀忍と収容された人々との不安な思いが綴られています。今日か明日かもしれぬ死刑執行に日々怯えながら、それでも希望を失くしてはいけない、今年こそは帰還して日本の地を踏むのだ、そのような思いが書かれています。

秀忍が亡くなってから40年近くたちます。生前の秀忍を知る人の言葉を借りますと、暖かい思いやりの心を持った、親しみやすく人々から敬愛される人柄だったそうです。生涯、趣味として沢山の絵を残していますが、絵からは秀忍の人柄がよく伝わってきます。

まほろば館では、3月29日（日）まで冬季企画展「加賀尾秀忍絵画展—絵筆に込めた想い—」を開催しています。この機会にぜひお立ち寄りください。

文化財センター「古代まほろば館」（TEL 63-3144）

発行 井原市教育委員会
 編集 教育委員会庶務課
 715-8601
 井原市井原町3 1 1番地 1
 TEL 0866-62-9531
 FAX 0866-62-0332

